

9月23日(金)～25日(日)まで、福島県の南相馬市で地元の人たちと、「福島に原発はいらない！」の署名活動に参加した東京社保協 前沢淑子さんの手記を紹介します。

『原発はない方がいいが、仕事がなくなる』

第2原発で正規職員として働いている男性は、「第1は危険だけど、第2は安全だ。もう、大丈夫。原発はない方がいいが、仕事なくなる。この田舎で原発以外の仕事が起こせるのか？疑問」とその複雑な胸中を話してくれた。5月に出産したという若いお母さんは、何度も署名項目を読みながら首をかしげる。「原発はない方がいいが、自然エネルギーへの転換で電力が賄えるとは思えない。やっぱり、署名はできない」……と。

また、別の女性は、「最近、津波や自身のことが頭から離れず、薬を飲まないと思えない」と。地域の女性が、「私も最近飲まないと思えない」と思いを共有していた。

原発はない方がいいと思っても、原発によって生活の糧を得ている人たちにとっては死活問題。現地の癒されない、厳しい現実を目の当たりにした思いだった。今回の署名行動で30筆が集まり合計で2,070筆に。鹿島地区の有権者8,000人の30%にあたる2,400筆の目標まであと330筆となった。

この日の宿泊先は、立入禁止区域から200メートルのビジネスホテル。別のホテルが満室のためここに来たが、「工事関係の長期滞在者でいっぱい」という話だった。ホテルの先は立入禁止のため、警察官がパトカーを止めて、24時間監視している。すぐ先に赤いランプが見えた。



無念の思いで壊れた船の整理



刈り取られるのを待つ稲の穂

『この米は、買ってくれるのだろうか？』

海岸の近くを走ると、壊れたガードレールや電柱が転がっている。6号線を境に海側は塩害で米は断念。陸側には黄金色の米がたわわに実っているが、この米は買ってくれるのだろうか？お爺さんが、田の畔にポツンと座っていた。

被災地は復興の兆しが見えているのか、いないのか？車は走っているが歩いている人は、ほとんどいない。ときどき、シルバーカーを押した高齢者や自転車に乗った人に出会うだけ。公園で10人くらいの高齢者が元気にゲートボールをしていた。開いているのはビジネスホテルとコンビニエンスストア、すき屋、モスバーガーとうどん屋。地元の立場に立った復興を急がなければ。そして、フクシマと連帯し、「原発はいらない！」の署名を広げなければ！の思いで東京へ。